

スパークス・日本株・ロング・ショート・ファンド
愛称:ベスト・アルファ

マンスリーレポート
基準日 2020年8月31日

【運用実績】

過去のパフォーマンス(%)	直近の分配実績(円)	
	ファンド	TOPIX配当込
過去1ヵ月間	0.62	8.17
過去3ヵ月間	5.84	3.62
過去6ヵ月間	4.57	8.58
過去1年間	5.66	9.78
過去3年間	16.91	7.32
設定来	155.48	104.07
		設定来累計
		1,300

※決算期に収益分配があった場合のファンドのパフォーマンスは、分配金(税金控除前)を再投資することにより算出される収益率です。従って実際の投資家利回りとは異なります。

【ロング・ショート別構成】

	比率(%)	銘柄数
ロング	62.5	34
ショート	-31.7	49
ネット	30.8	-
グロス	94.2	-

※ 比率は対純資産総額
※ ネットはロングとショートの差引、グロスはロングとショートの合計です。

【市場別構成(ロング)】

市場	比率(%)
東証1部	43.0
東証2部	0.0
東証マザーズ	16.8
ジャスダック	2.7
その他市場	0.0

※比率は対純資産総額

【業種別構成(ロング)】

業種	比率(%)
情報・通信業	14.1
機械	9.6
医薬品	8.8
サービス業	7.3
電気機器	6.7
その他	16.0

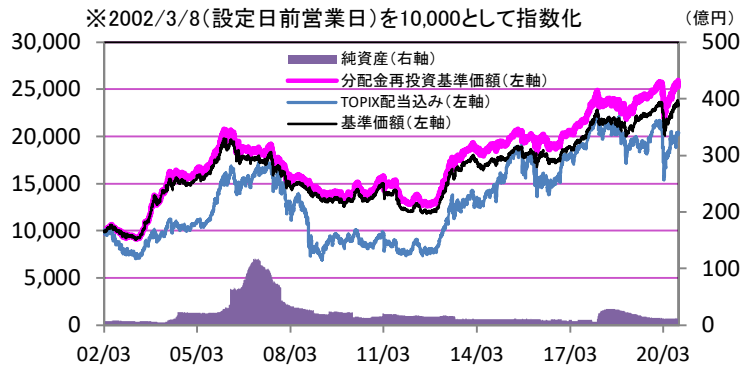
※比率は対純資産総額

【基準価額・純資産総額の推移】

基準価額	解約価額	純資産総額
23,444 円	23,374 円	11.24 億円

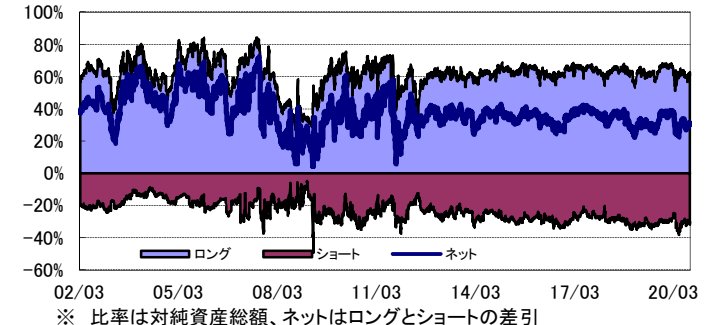
ハイ・ウォーター・マーク 22,303 円

※ 基準価額がハイ・ウォーター・マークを超えると実績報酬が発生します。詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。
※ 当該ハイ・ウォーター・マークは、当ファンドの毎計算期間末(毎年3月10日、休日の場合は翌営業日)および毎計算期間の最初の6ヵ月終了日に更新される場合があります。詳しくは委託会社にお問い合わせください。



※基準価額は信託報酬・実績報酬等控除後です。
※分配金再投資基準価額は、当該ファンドの信託報酬控除後の価額を用い、分配金を非課税で再投資したものとして計算しております。
※当ファンドはTOPIX(配当込み)をベンチマークとするものではありません。
※過去の実績は将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

【ロング・ショート比率推移(設定来)】



※ 比率は対純資産総額、ネットはロングとショートの差引

【組入有価証券上位10銘柄(ロング)】

	銘柄	業種	比率(%)
1	村田製作所	電気機器	3.3
2	ペプチドリーム	医薬品	3.2
3	日揮ホールディングス	建設業	3.2
4	JMDC	情報・通信業	3.0
5	ギフト	小売業	3.0
6	SUMCO	金属製品	2.8
7	SMC	機械	2.7
8	ダイキン工業	機械	2.6
9	UTグループ	サービス業	2.5
10	DMG森精機	機械	2.4

※比率は対純資産総額

※ 上記記載のうち、【運用実績】、【基準価額・純資産総額の推移】以外は当ファンドが投資するマザーファンドに関する情報です。

※ 「比率(%)」は、当ファンドが投資するマザーファンドの純資産総額に対する比率です。

■当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社(以下当社)が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡しますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。従って、元本が保証されているものではなく、組入れた有価証券の価格が下落する場合や、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込む場合もあります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。■投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■当資料は目的によらず、当社の許可なしに複製・複写することを禁じます。■当ファンドに関する投資信託説明書(交付目論見書)のご請求、お問合せは販売会社まで。

スパークス・日本株・ロング・ショート・ファンド
愛称:ベスト・アルファマンスリーレポート
基準日 2020年8月31日

ファンド・マネージャーのコメント

【市況状況】

2020年8月、日本株式市場の代表指数であるTOPIX（配当込み）は前月末比8.17%上昇しました。

当月の日本株式市場は、新型コロナウイルス感染症に対するワクチン開発への期待感や米国の景気回復期待を背景とした「米国株高」を好感し、上昇基調で始まりまし

た。月後半は2020年4-6月期の国内総生産（GDP）速報値が年率換算27.8%減と戦後最大の落ち込みを記録したことや、安倍首相の辞任表明が相場の重しになりながらも、米国連邦準備制度理事会（FRB）のゼロ金利政策の長期化に向けた政策指針表明などが好感され、上昇基調に転じました。

【運用状況】

8月の当ファンドは、AI inside、UTグループなどが上昇し、パフォーマンスに対してプラスに貢献しました。

AI insideは、2021年3月期第1四半期決算でAI（人工知能）を用いた文字認識サービスに対する強い需要が確認されたこと、それをもとに通期業績が上方修正されたことから、株価が上昇しました。UTグループは、2021年3月期第1四半期決算が増益だったこと、さらに今後は自動車産業の生産回復によって同産業向け売上が増加する見通しが高まったことから、株価が上昇しました。

一方、SUMCO、ロコガイドなどが下落し、パフォーマンスに対してマイナスに影響しました。

SUMCOは、2020年12月期第2四半期の決算が事前の会社予想を下回ったこと、また第3四半期の営業利益が第2四半期に比べて減益となるとの業績予想で半導体ウエハを取り巻く事業環境に対する懸念が高まり、株価が下落しました。ロコガイドは、事業拡大の重要な指標である有料契約店舗数が減少していたことで今後の成長性に対する懸念が拡がり、株価が下落しました。

当月は、投資魅力が高いと判断した企業に新たに投資を開始したこと、株式市場の水準が上昇したこと、事業環境の厳しさを反映して株価が低水準にある企業へのショート投資に対して買戻しを行ったことから、ネットポジション、グロスポジションとも引き上げ、ネットポジションは当ファンドが考える中心値30%近辺としました。

【運用方針】

日本株式市場は6月の高値を更新し、新型コロナウイルス感染拡大後の高値を更新しています。経済活動を正常化させつつ新型コロナウイルスと共存する新しい社会への期待が高まっています。8月末には安倍首相の辞任が発表され、7年8か月にわたる長期政権が終ることとなりました。在任期間中に一貫して取り組まれてきた「デフレからの脱却」は道半ばとなりますが、次期政権に引き継がれる公算が高く今回の首相交代は大きな波乱にはならないと考えています。

今月新たに組み入れた「モダリス」についてご紹介します。

モダリスは東京大学の濶木研究室の遺伝子編集技術「CRISPR - GNDM」を使って、希少性疾患に対する遺伝子治療薬の開発を行う創業ベンチャー企業です。

遺伝子治療とは異常な遺伝子を持っているために機能不全に陥っている細胞の欠陥を修復・修正することで病気を治療する手法です。ゲノム編集の進歩に伴いCRISPR/Cas9やTALENなどといった遺伝子改変技術の革新が進み現在は遺伝子の切り貼りが可能になり遺伝子治療薬の開発が世界的に活発化しています。同社の「CRISPR - GNDM」は遺伝子を切断することなく患者体内での目的遺伝子のON/OFFを制御する遺伝子スイッチ機能をつくる創業プラットフォーム技術です。従来技術に対する強みは、①遺伝子切断に伴うガン化リスクの増加や目的以外の遺伝子切断などの安全性の問題が解消される点、②遺伝子の結合部位を変えるだけで様々な疾患への応用が可能な点があげられます。

同社では、単一遺伝子疾患のうち約2000疾患への応用が可能と考えています。現在のパイプラインは共同研究開発5品目、自社開発2品目で、共同開発のうち二つはアステラス製薬㈱に既にライセンスアウト済みとなっています。

当ファンドでは、「CRISPR - GNDM」は他の遺伝子疾患への汎用性が高いため新規開発品の創出が可能と考えています。また同社のビジネスモデルは「臨床早期段階で開発パートナーを見つけ、その後ライセンスアウトする戦略」であり、安定的に収益の積み上げが可能な収益構造になっていると、当ファンドは判断しています。当ファンドはバイオ企業を評価する上で創業基盤の強さとその汎用性の高さが重要と考えています。同社はこの二つを兼ね備えていると判断し、また上場時の時価総額が海外で既に上場している類似会社に比べて低かったことから、新規に投資を開始しました。

ショート投資では新型コロナウイルス感染拡大による業績悪化と資産の減損リスクに注目してショート投資を行っていた小売企業に対しては、業績の深刻さは概ね株価に反映されたと考え、ショートポジションの一部を買戻しました。一方で、リモートワークにおいて重要性が高まったコミュニケーションツールを提供する企業に対して、足元で事業は成長しているものの海外の巨大企業など複数企業が類似サービスを提供しており、中長期的な事業基盤は弱いと判断し、新たにショート投資を開始しました。

■当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社（以下当社）が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書（交付目論見書）をお渡ししますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。従って、元本が保証されているものではなく、組入れた有価証券の価格が下落する場合や、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込む場合もあります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。■投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてはコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■当資料は目的によらず、当社の許可なしに複製・複写することを禁じます。■当ファンドに関する投資信託説明書（交付目論見書）のご請求、お問合せは販売会社まで。